



みんながつながり 「夢が育つ学校」に

国立二小だより

平成 29 年 9 月 30 日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

廣瀬誠さんからのエール

校長 小林 理人

「廣瀬さんは目がちゃんと見えないのに柔道の夢に向かってるのがすごいと思いました。ぼくはサッカーをしているのであきらめないで頑張っていきたいです。」これは、全校朝会の校長講話で14日に行われたドリーム教室について話した後に、子供たちが書いた感想文の一部です。

ドリーム教室で、廣瀬さんには、柔道を始めたきっかけや廣瀬さんからいただいた色紙に書かれた「広い視野と感謝の言葉」に込めた思い等について、全校の子供たちにお話をいただきました。

「注意をしてくれる人が自分のことを思ってくれていると考えると怒りではなく感謝の気持ちになれる。物事や出来事を広い視野で見ることが大切。」「目が見えづらくなって、これまで当たり前だと思ったことが、とても有り難いことだと何事にも感謝の気持ちをもつようになった。」など、体験に基づくお話は子供たちの心に深く響いたようです。

また、柔道の技を見せていただいた後に質問の時間がありました。「視覚障害になって怖かったことはどんなことですか。」「包丁で手を切ったり火傷をしたりしたことはありませんか。」など、子供たちの素朴な疑問に丁寧に答えてくださいました。「怖かったり、失敗をしてしまったりすることは誰にでもある。失敗を恐れず夢に向かってチャレンジをすることが大切です。」と笑顔で応えてくださる廣瀬さんに夢に向う勇気をいただきました。

いよいよ明日から10月です。10月は「結実」という言葉を意識し、1学期から目標に向けて取り組んできた一人一人の頑張りや成長した力を発揮します。ドリーム教室で廣瀬さんからいただいた夢や目標に向かって勇気をもってチャレンジすることのお話は、「結実」をめざす私たちへの力強いエールとなりました。子供たちの力、心をひとつに育んできた集団力、そして、学校を支えてくださる保護者、地域の皆様の力をひとつにして、笑顔いっぱいの運動会を創り上げます。

本年度のドリーム教室について

本校は本年度、東京都のオリンピック・パラリンピックアワード校として表彰されました。これまで本校で取り組んでいる夢を育てる活動や個性を認め合い、みんなでなかよく生活をする校風が、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックの成功につながる教育活動として認められたのです。

本年度のドリーム教室は、オリンピック・パラリンピックアワード校の特別な事業「夢・未来プロジェクト」として、4回のパラリンピック（視覚障害者柔道）に出場した廣瀬誠さんをお迎えし、開催することができました。